

Departure English Expression I, II

Part 1

適切な英文一文で表現する力を身につけるパート



塚田 豊

Departure English Expression II・Part 1 (全20課)では、英文一文を正しく作るための文構造の学習が中心になります。特徴は、「表現のための学び」と「考えて気づく」を重視していることです。

◆すべての技能が絡むレッスン構成

各課は、見開きで次のとおりです。聞く・書く・読む・話す活動がすべて含まれます。

Warm up リスニング	Practice 練習問題
Structures 文構造の学習	Express Yourself 自己表現活動
Ways to Express It 日本語を噛み砕く練習	Challenge! パッセージの読解、話し合う活動

◆発信のプロセスをたどって行う文法学習

各課の Structures では、まさに「表現のため」の文法学習を行います。例えば、最初の9課は次のようになっています。

Lesson 1：主語（様々な主語）

Lesson 2-4：動詞（現在時制・状態／動作 [L2], 自動詞／他動詞・助動詞・態 [L3], 過去・現在完了・過去完了 [L4]）

Lesson 5-7：動詞に続く文構造（補語・目的語 [L5], 様々な文構造① [L6], 様々な文構造② [L7]）

Lesson 8, 9：名詞の修飾・説明（句による修飾

[L8], 節による修飾・説明 [L9]）

このように、従来のような文法項目ごとに1つずつ学んでいくスタイルにはなっていません。つまり、文法知識の獲得を意図しているのではなく、アイデアを英文で表現するための手順と技能を身につけることに焦点が当てられています。

生徒が英語で発信しようとするとき、一定の意味のある内容を一気に英語に変換するのは困難です。手順として、まず主語を定め、次に動詞を選び、そして続く文構造に語句を埋め込んで英文を完成することになります。Part 1では、そのプロセスをたどりながら、それぞれの段階で活用する文法項目や、表現の際に注意すべき点を学びます。つまり、どんな手順で英文を組み立て、その過程で何に気をつけ、どの文法を活用すればよいかを、整理して学んでいくことになります。

日→英の過程で間違いやすい点として、例えば「～している」をどう表現するか、があります。Lesson 2では、日本語で「～している」を含む文が3つ提示され、どんな意味内容のときにどの変化形（動作／状態動詞の現在形、現在進行形）を用いるかを学びます。他の課では「～した」が必ずしも過去形でないこと [L4] や、「(人)に～(物)を…」がSVOOとはならない場合もあること [L6] に注意を払います。Lesson 13では、「もし…なら」に対して、可能性の有無により If S 現在形…、と If S were to…、を使い分けることを学びます。また、可算・不可算名詞の使い分け [L15] や、連語 [L16] を学習項目として扱うなど、「なるほど、そこに注意して表現しな

ければいけないのか」に気づく糸口が様々に与えられます。このように、文法を深く理解し、表現の際に正しく活用することや、自ら注意点を目に向け、英文を点検・添削し、改善する姿勢を養うことを、意図しています。

◆日本語を分析し、噛み砕いて表現する練習

生徒が英語で表現する際の課題として、日本語を直訳しようとして行き詰まる、ということが挙げられます。表現力を伸ばすためには、もとの日本語を噛み砕いて、知っている語句で表現する姿勢を身につける必要があります。この練習を継続して行い、習慣化しようというねらいがあるのが、Ways to Express Itです。Part 2まで全課で続けます。ここでは、例えば「活躍する」→「とてもうまくやる」や、「相談に乗る」→「話を聞きアドバイスする」など、日本語特有の言い回しや一見英語にしにくそうな日本語でも、噛み砕いて英語で表現できる例を示しています。

Practice では並べ替えと和文英訳に取り組みますが、ここでも、このように日本語を噛み砕いて表現する練習問題が含まれています。また、本教科書準拠のワークブック『ライティング・サポート・ノート』にも同種の問題が（ヒント付きで）ふんだんに用意されており、併せて活用することで、この訓練を数多くこなせます。

◆身近な内容を、楽しみながら自己表現する活動

Express Yourself は各課の中心的活動であり、課のトピックに関連して考えや体験などを、3～4文のスピーチで表現するものです。ここには課の学習内容を含んだフォーマットが空欄付きで示されており、空欄に生徒が独自の内容を入れれば、短くまとまったスピーチが完成します。

一般に生徒は、自分のことを表現する活動にはとりわけ意欲的に取り組もうとします。好きな音楽や部活のことをクラスメートに知ってもらいたいと思っている生徒は多いでしょう。家族への感

謝の言葉など、日本語では言いにくくても英語でなら言えるような場合もあるでしょう。ここでは、そのような身近な内容や体験談を取り上げスピーチで発表する機会を設定することで、生徒の表現への意欲を高めます。

この自己表現活動では、気持ちが前向きになるような内容が題材として設定されています。スピーチを考えることで自己を振り返る機会としてくれると嬉しい限りです。また、後半の課では社会問題が扱われます。それらの問題に目に向け、考える機会にしてほしいとも願っています。

通常、スピーチの指導では、準備や指導の負担が大きかったり、発表に時間がかかったりしますが、ここでの自己表現は短時間で行うことができ、発表も時間を取らずに行うことができます。例えば数人のグループ内で発表したり、数課ごとに1回、どれかの課の内容をクラス全体に発表するなどが可能です。

◆面白さ、発見、学びのある内容

各課の最初にはリスニング活動としてのWarm-up が設定されています。高校生の日常にありそうな場面での会話を聞いて、理解する活動です。会話にはちょっとしたオチがついているものもあり、面白くて分かりやすくなっています。

Challenge! は課の最後に行います。トピックに関連した80語程度のパッセージを読み、感想などを述べ合う活動です。題材には、考えさせられるもの、発見のあるものを取り上げました。語句や英文は、手応えのあるレベルになっています。興味を持って読んでもらえるものと思います。

『ライティング・サポート・ノート』では大学入試問題も取り上げ、生徒のあらゆるニーズに対応する学習ができるようになっています。

本教科書を通じて、生徒が自ら英語で表現することへの意欲を高め、力を伸ばしてくれることを期待します。

(つくだ ゆたか・滋賀県立長浜北高等学校教諭)